

防滑性について

バランスの良い適度な防滑性が転倒事故を防ぎます。

床材の安全性を考える上で防滑性は一つの重要な要素となります。

滑りすぎる床はもちろんのこと、極端に滑りにくい床もつまづきや転倒の危険性があり、空間に応じて適度な防滑性が要求されます。

試験方法・・・JIS A 1454 高分子系張り床材試験方法「滑り性試験」

東京工業大学(現 東京科学大学)の小野研究所が開発した滑り試験機によるOY-PULL法にて試験を行っています。実際の歩行に最も即している試験方法といわれ、滑り片に実際に使用する履物の底を貼り付け、80kgfの荷重をのせ、18°の角度で引っ張った時に得られる最大引張り荷重を測定し、その値を載荷重量(80kg)で除した値(C.S.R値)をすべり抵抗の評価指標としました。

サンゲツではA+もしくはA評価の床材を防滑床材と定義しています。

● 防滑床材について

※「防滑シート」に掲載の床材をC.S.R値に応じて 防滑ランクA+ 防滑ランクA に分類して表示しています。

| ▲ 防 滑 床 | 評価 | 基準となるC.S.R値 | |
|------------------|----|--|--|
| | | 水+ダスト = 0.53以上且つ水+ダストと乾燥状態のC.S.R値差0.29以内 | 防滑ランクA+ |
| ▼ 一 般 床 | A+ | 水+ダスト = 0.5以上 | 防滑ランクA |
| | A | 水+ダスト = 0.4以上0.5未満 | |
| ▼ 一 般 床 | B | 水+ダスト = 0.4未満 | |
| | C | 水+ダスト = 0.4未満 | |

※JIS A 1454すべり性試験結果のC.S.R値に基づき、評価A以上を防滑床材としています。

※数値が大きいほど滑りにくいことを表しています。優れた防滑性の条件とは、「乾燥状態」と「水+ダスト」の防滑性能の差が小さいことです。